



クチナシ

54編はダビデの詩、マスキール(瞑想)です。端書きに **ジフ人**が来て、サウルに「**ダビデが私たちのもとに隠れている**」と話したとき(54:2)とあるように、ダビデがサウルの追跡を逃れ、ヘブロン山地に隠れていた時に、その地のジフ人がサウルに密告したことが背景になっています。サウルは精鋭三千を率いダビデを追って行きました。ダビデはサウルの陣に近づき、サウルが寝り込んでいるのを見つけ、殺さずに、枕元から槍と水差しを取って、自分の隠れ場に戻りました。そして、サウルの兵士たちの護りに隙があったことを大声で叫び、伝えました。

命を救われたサウルはダビデに危害を加えようとしたことを悔い、ダビデに帰還を勧めました。けれどもダビデは **主は、おのおのに、その正しい行いと忠実さに従って報いてくださいます。今日、主はわたしの手にあなたを渡されましたが、主が油を注がれた方に手をかけることをわたしは望みませんでした。今日、わたしがあなたの命を大切にしたように、主もわたしの命を大切にされ、あらゆる苦難からわたしを救ってくださいますように。(サム上26:23)**と云って、サウルを信じずに去って行きました。ダビデは自分の前に常に神を置き、サウルらの計略に優る、勇氣ある寛大な戦略を取ることができました。

詩編の詩人は救いを求めて訴えています。最後に **主は苦難から常に救い出してくださいます。わたしの目が敵を支配しますように(54:9)**と、神への信頼を述べ、「目」による支配ができるようにと願っています。「目」は、エデンの園で蛇が園の中央に生えている果実を **それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。(創3:5)**と女に説明したように、「目は善悪を知る」ためにあると考えられ、聖書の民は「目を覚ます」ことを求められています。詩人は剣、槍などの武器ではなく「善悪を知る」ことによって支配したいと願っています。「讚美歌21」には関連讚美歌がありませんが、ジユネーブ詩編歌が爽やかな演奏で賛美しています。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=FKATZJhlpMA&list=PLSVF7paNgo6DqMQf2E3RRXDdPf72-6Aw9&index=65&t=0s>

55編は54編の冷静さとは異なり、敵に追われて、悩み、呻き、不安におののき、狼狽し、死の恐怖にわななく、詩人の率直な心情を吐露しています。詩人は **わたしは言います。「鳩の翼がわたしにあれば／飛び去って、宿を求め／はるかに遠く逃れて／荒れ野で夜を過ごすことができるのに。／ 烈しい風と嵐を避け／急いで身を隠すことができるのに」(55:7)**と、安全な所へ逃れられる鳩の翼がほしいという素朴な心の持ち主です。都の不法、争い、搾取、詐欺の様子も聞こえています。彼を苦しめているのは、敵がだが、それはお前なのだ。わたしと同じ人間、わたしの友、知り合った仲。楽しく、親しく交わり／神殿の群衆の中を共に行き来したものだ(55:14)とあるように、友人、同じ信仰に立つ者なのです。彼らは **神はいにしえからいまし／変わることはない。その神を畏れることなく／ 彼らは自分の仲間の手を下し、契約を汚す。／口は脂肪よりも滑らかに語るが／心には鬨の思いを抱き／言葉は香油よりも優しいが、抜き身の剣に等しい(55:20)**と、詩人に対して、虚言、口約束、裏切、策略を用いて騙し、刃を向けるのです。詩人は敵を討つチャンスがあっても、それを押しとどめ、神の裁きに任せて、自らは手を下しません。それゆえにこそ、苦しみが続くのですが、神が詩人の呻きを聞き取って下さると信じます。**あなたの重荷を主にゆだねよ／主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え／とこしえに動揺しないように計らってください(55:23)**と、告白しています。「讚美歌21」では432「重荷を負う者」を関連讚美歌としていますが、私は437「行けども行けども」を賛美したいと思います。参照 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2016-06-03>